

高原の風だより

2024 (令和6) 年7月 発行 <第28号>

福島の岩井さん 趣味は仏像彫刻と刻字

夢中で彫る時間や達成感が魅力



地藏菩薩



阿弥陀如来坐像



慈母観音



岩井孝雄さん

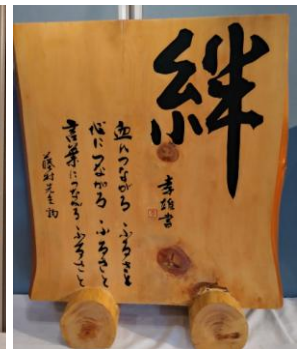
根気に圧倒される思いがした。

仏像彫刻について「退職後に認知症予防に趣味で始めた」と話す岩井さん。13年前から松本市内のカルチャーセンターへ月2回のペースで通い、昨年末には295回を数えた。また、刻字は伊那の教室に7年通って学んだという。「(仏像も刻字も)夢中になって彫っている時間や完成時の達成感が魅力」という岩井さん。これからも畑仕事などの合間を縫って、コツコツ地道にマイペースで作品を彫っていきたいと考えている。今後の目標については「仏像と刻字のコラボ作品にも挑戦してみたい」と意欲があらわれている。

今年2月下旬、上松町小川の関西電力木曾水力センター内にある「かんでんギャラリー」を初めて訪れた。岩井孝雄さん(75歳、木曾町福島)の彫刻作品展が開かれていた。慈母観音や地藏菩薩などの仏像彫刻のほか「飛翔」や「躍動」と力強く彫られた刻字など30点余り展示されていた。仏像の背後にある飾り(光背・こうはい)などは特に繊細に彫り込まれていて、中には2年がかりで仕上げた作品もあるという。県シニア作品展で入選した作品も少なくない。岩井さんの情熱や



観音様



刻字「絆」

みなみろくろし ～福井県大野市南六呂師に学ぶ～

美しい星空生かしたまちづくり

夜空の星は大きな観光資源

「木曾路はすべて山の中」である。森林が多くを占め民家や工場、街灯などが少ない。そのため、いわゆる光害（ひかりがい）が少なく夜空の星が本当に美しい。特に開田高原は県内でも星空が美しい場所の一つに数えられ、写真愛好家や天文ファンが多く訪れている。

私たちは今まで、夜空の星が美しいのは当たり前のように考えてきた。夜の暗さや星の美しさなどその貴重さに気づかないで過ごして来たのではないかと思う。

しかし、最近はこのマイナス面として捉えられていた「夜の暗さ」が注目され、美しい星空が脚光を浴びるようになってきている。すでに観光資源として積極的に売り出している自治体や地域も増えてきた。今後、南六呂師の美しい星空 2022 星 (hiroaki2410) <写真提供：大野市役所> 木曾町でも星空を生かした地域の活性化が可能ではないかと思う。そのような中で先日、開田高原地域協議会では総務住民委員会が中心になり、「美しい星空を生かしたまちづくり」を実践している福井県大野市南六呂師地域を視察した。



南六呂師の美しい星空 2022 星 (hiroaki2410) <写真提供：大野市役所>

日本一美しい星空に選定 ～2004年、05年 全国星空継続観察～



市役所では観光交流課職員が対応してくれた

大野市役所では地域経済部観光交流課の職員2名がとても丁寧に対応してくれた。私たちは資料を基に星空保護区認定の経緯などについて、質問を交えて詳しく学ぶことができた。全国でも有数の星空観察スポットになっている大野市は、環境省が主催する全国星空継続観察で2004年、05年と2年続けて「日本一美しい星空」に選ばれたという。対象エリアは南六呂師という市の東部、標高約500メートルの高原だ。

視察ではホテルで夕食を終えた後、車で南六呂師高原へ移動。あいにくの雨のため屋外での星空観察はかなわなかったが、施設内に設置されたプラネタリウムを使って、星のソムリエ（星空案内人）から話を伺った。週末には天体観望会が開催

されているほか「星空ハンモック」や「星降るランタンナイト」などのイベントも盛んに実施されているようだ。また、県自然保護センターには口径80センチと北陸最大級の大型望遠鏡やプラネタリウムが完備されるなど、星空保護区としての環境整備も進んでいるように感じた。

星空の世界遺産「星空保護区」に認定 ～世界基準で評価する国際的な認定制度～

星空保護区とは暗い自然の夜空（美しい星空）の保全を世界基準で評価する国際的な認定制度で、「星空の世界遺産」とも言われている。星空保護区には5つのカテゴリーがあり、全てのカテゴリーの認定地を総称して「星空保護区」と呼んでいる。いずれも認定に際して次のようにいくつかの条件を満たす必要がある。

1. 人工光の影響が少ないこと。周囲の街灯や建物の光が星空を妨げない状態であることが重要。屋外照明に関する厳格な基準をクリアしなければならない。

2. 自然環境の保全。その地域が美しい星空だけでなく、自然の景観や生態系も守られていることが求められる。
3. 地域住民の協力。住民が人工光の削減や星空観察の啓発活動に参加することや、人々（ビジターを含む）がその夜空を体験できる環境整備などが求められる。

大野市南六呂師は昨年 8 月、これらの厳しい基準をクリアし、日本で 4 例目となる「星空保護区」に認定された。都市に近いながらも優れた夜間環境の保護が行われている地域を対象にしたアーバン・ナイトプレイスのカテゴリーではアジア初の認定である。

国内の星空保護区一覧（2024 年現在）

| 名称 | カテゴリー | 認定年 | 認定対象など |
|---------------------------------------|-----------------|------|--|
| オキナワケンニシオモテシカキコクリツコウエン 沖縄県西表石垣国立公園 | ダークスカイ・パーク | 2018 | 自然公園や森林公園、エコパークなど。質の良い屋外照明を使用し美しい星空が保たれている。 |
| トウキョウトコウソツジマ 東京都 神津島 | ダークスカイ・アイランド | 2020 | *認定カテゴリーはダークスカイ・パークだが、ダークスカイ・アイランドの呼称使用を認められた。 |
| オカヤマケンイバラシ ビセイチョウ 岡山県 井原市美星町 | ダークスカイ・コミュニティ | 2021 | 対象は町や市といった自治体単位。質の良い屋外照明の使用に関する条例の施行など。 |
| フクイケンオオノシミナミロク ロ シ 福井県大野市南六呂師 | アーバン・ナイトスカイプレイス | 2023 | 優れた取り組みをしているが近隣の明るい都市の影響により他のカテゴリーでは認定が受けられない場所。 |

産官学民が連携して改善努力 ～星空に優しい光害対策型防犯灯導入～

星空保護区認定に向けて多くの課題がある中で、一番の難題は光害に配慮した屋外照明の導入ではないだろうか。設置にあたっては国際ダークスカイ協会（DarkSky）¹の認定を受けた星空に優しい照明でなくてはならない。大野市では福井工業大学や大手照明メーカーのパナソニック株式会社などと連携。地域の産官学民が一丸となって光害啓発活動や屋外照明の改善に取り組んできた。暗く美しい自然の夜空を貴重な資源として保護するため 2020 年、星空に優しい照明（光害対策型防犯灯）²の導入をスタート。県の協力を得て昨年、区域内にある全ての防犯灯や公共施設の屋外照明の改修を終えたという。

開田高原でも光害対策型防犯灯 ～100 基余りを改修～

星空観測の適地として県内では阿智村や野辺山（南牧村）などが有名だが、開田高原も県内で星がきれいに見える場所として知られている。

開田支所では地域協議会の事業の中で、星空を生かしたまちづくりを進めてきているが昨年 3 月、「暗く美しい星空を保護して欲しい」と開田高原の住民が町へ 80 万円を寄付した。町ではそれを財源の一部として、県の補助金なども活用しながら開田高原の防犯灯を光害の少ない暖色系光の LED 灯に取り替える事業を実施。国際ダークスカイ協会が認定した光害対策型防犯灯への交換は、開田支所によるとすでに 100 基余りを数えるという。ただ、高原内にある防犯灯は、木曾馬をデザインしたボードの付いたものだけでなく、電柱に取り付けたものなどまだ数多くあるため、これらへの対応が今後の大きな課題になる。



光が上部へ漏れる従来の防犯灯



協会認定の光害対策型防犯灯

星空保護区 検討してみても ～環境や生態系維持にも貢献～

星空の美しさを地域づくりに生かしている事例は県内外に数多くあるが国内で星空保護区の認定を受けているのはわずか 4 か所のみ。国際的な認定基準が厳しくハードルが高いことが要因だと思われる。それだけ価値が高く、「星空の世界遺産」とも言われているゆえんである。

美しい夜空を保護することは、観光面でのメリットにとどまらず環境保全や美しい景観、生態系の維持など多方面に大きなメリットがあるものと考えられる。東京大学木曾観測所があり豊かな自然環境に恵まれた木曾町として、星空保護区認定に向けた取り組みも検討してみてもいいだろうか。

¹ 国際ダークスカイ協会（DarkSky） 世界の天文学者、環境学者らを中心に光害問題に取り組む世界最大の NPO 団体。1988 年設立。米国アリゾナ州に本部。世界 24 か国に 78 支部がある。東京に日本唯一の支部がある。

² 星空に優しい照明（光害対策型防犯灯） ・色温度 3000k（ケルビン）以下 ・上方光束率 0%（上空に光が漏れない）

町民登場

はた 焔 ひでとし 英利さん (69歳・木曾町新開)②



地球のロマンを感じる ～絶景にかかるアイスランドのオーロラ～

平成28(2016)年、開田小学校長を最後に退職した焔さん。長年、理科の教



師として働きながら アラスカやカナダ、シベリア、北欧など主に北極圏でオーロラや太陽などの撮影を続けてきた。今までの渡航回数は50回以上を数える。現在は、アイスランドを拠点に活動中で、“オーロラハンター”の異名を持つ天体写真家だ。

新型コロナウイルスの影響もあり一時中断を余儀なくされたが昨年、アイスランドへの渡航を再開。この時には福島小児童が手作りした凧を持参し、現地の子どもたちに揚げてもらうなど国際交流にも取り組ん

「赤い夜光とオーロラ」(アイスランド西部)

だ。オーロラは太陽で発生した磁気と電気を帯びた粒子が、大気中の粒子と衝突して発光する現象。春分と秋分の時季はオーロラが安定して見やすいという。「アイスランドは氷河や滝、海、火山などの絶景にオーロラがかかり、地球のロマンを感じる」と語る焔さん。アイスランドの魅力は、ほかにもある。それは白クマなど危険な動物がいないことや治安が良いことなどだ。今年の秋頃は太陽が活動期に入るため、赤いオーロラに出合えるチャンスがやって来る。秋分の日頃に渡航できないか、と魅力あふれるアイスランドへ思いは尽きない。

また昨年、開田高原を中心に県内外やアイスランドなどで撮影した「夏の天の川とコナラの木」(開田高原)貴重な天体写真集『開田高原の星空』を出版した。(詳細は下記の「私の本棚」で紹介)



「夏の天の川とコナラの木」2020/4/28 14mm 10秒 ISO6400

私の本棚 『開田高原の星空』(焔 英利 共著・かいだ印刷)

木曾町立開田小学校や同中学校などに勤務し、あらためて開田高原の星空の美しさに感動したという焔英利先生の共著。貴重な写真を豊富に使用し宮沢賢治の作品とともに分かりやすく紹介している。

地蔵峠からのオーロラや木曾馬の里からの天の川、開田中学校から望む冬の大三角と御嶽山、九蔵峠のカノープス等等興味深い写真が並ぶ。それぞれの写真には撮影日や星の名前なども書かれているので素人でも楽しめる。筆者は書を通して開田高原の星空の素晴らしさを再発見して欲しいと願っている。やま路書店をはじめ開田高原観光案内所などで販売中。



編集後記

過日、星空保護区の視察で福井県大野市を訪れてから、今まで当たり前のこととして眺めていた星空が、とても貴重で魅力に富んだものであることが分かりました。「暗い夜空が大きな資源」であることをあらためて認識し、みんなで光害のない暗く美しい夜空を保護していきたいものだと考えています。



編集・発行者： 大目 富美雄 (おおめ ふみお)

〒397-0301 木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661

携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com



Facebook